

1. 件名：廃スラッジ回収施設の放射性ダストの気中移行試験結果等に係る面談
2. 日時：令和4年9月1日（木）10時30分～11時45分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

新井安全審査官、高木技術参与

東京電力ホールディングス株式会社（テレビ会議システムによる出席）

福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所 担当3名

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、現在、設計の見直しを進めている廃スラッジ回収施設（以下「本施設」という。）に関し、資料に基づき以下の事項について説明があった。
  - ✓ 本施設で発生する放射性ダストの気中移行試験について
    - ◇ 本施設を構成する設備のうち、既存の文献等で移行率を算定できない遠心分離機については、本年6月までに気中移行に係る要素試験を実施したが、気中移行量が想定よりも多く、排気フィルタの交換に伴う作業員の被ばく影響を低減させる必要があることが判明した。
    - ◇ このため、本年9月までに実機の構造を模擬した装置にて追加の試験を行い、再度移行量を確認する予定である。
  - ✓ 本施設の設計スケジュール
    - ◇ 今回追加する気中移行試験の結果によって、機器の構造等を見直す可能性があることから、最終的な構造や耐震・強度評価結果を提示できる時期は本年12月頃となる見込みである。
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメントを行った。
  - ✓ 気中移行率から線量評価を行うまでの計算過程とその際に参照した既存文献の実機への適用性に加えて、遠心分離機における気中移行試験の結果については、試験に使用した機器、模擬スラッジの性状、機器の運転状態、温度や湿度等の環境条件の妥当性を整理して説明すること。
  - ✓ 気中移行試験結果を踏まえた通常時の敷地境界における被ばく（内部被ばく及び外部被ばく）影響を説明すること。
  - ✓ 廃スラッジの回収・脱水・充填するまでの全体的なシステムの成立性を確認するために、現在東京電力が計画しているモックアップ試験の内容と実施時期を説明すること。
  - ✓ 廃スラッジの回収完了後の本施設の取扱い（除染、解体・撤去の方法、発生する固体廃棄物の保管・管理の方法等）を説明すること。
- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨回答があった。

6. その他

資料：廃スラッジ回収施設の設置に関わる補足説明資料